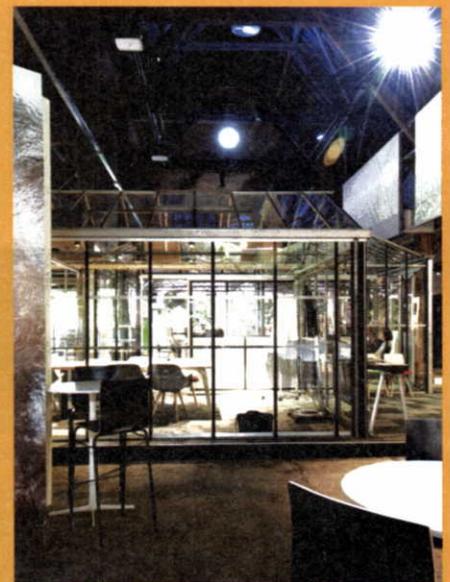
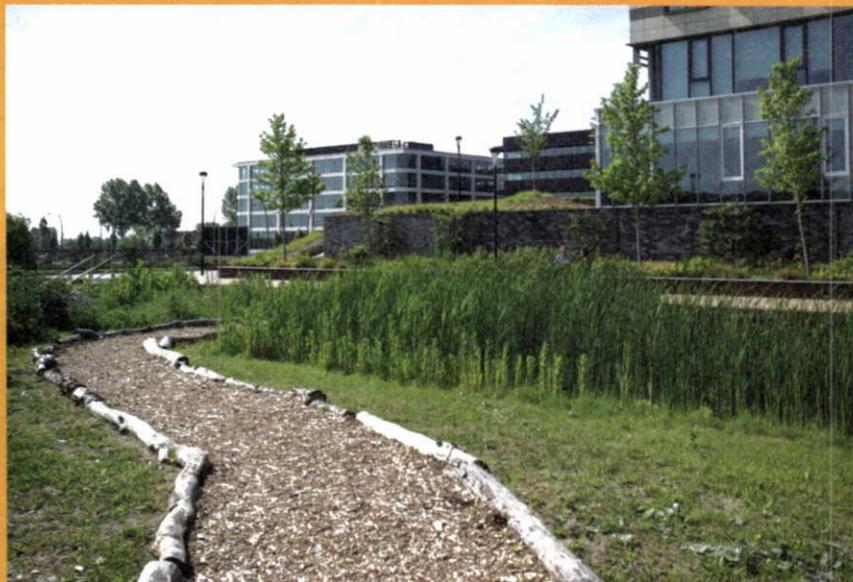




オランダは、国土が狭く、人口密集率が高い。その上、中世の頃から洪水と戦い住みやすい環境を目指し絶えず変化してきた。公害にも敏感だ。また天然資源も少なく、手元にある資源は循環させ、より長く効率的に利用していくという考え方が自然に身についているという。日本は非常にオランダと似ており、オランダの先進的なサーキュラー・エコノミーの考え方は、日本にとっても参考になるはずだ。



# 資源循環先進国オランダの サーキュラー・ エコノミー

## サーキュラー・エコノミー最先端国オランダ

# 官民一体で循環型社会の構築を目指す

オランダ政府は、2030年までに持続可能でない一次原材料（鉱物、化石燃料、金属）の使用を半減することを中期目標にし、2050年までにサーキュラー・エコノミー（循環型経済）を100%実現すると宣言。オランダ・サーキュラー・ホットスポット財団のFreek van Eijk氏に、その背景や現状をうかがった。

文・岩澤里美

### サーキュラー・エコノミー・バレーも計画

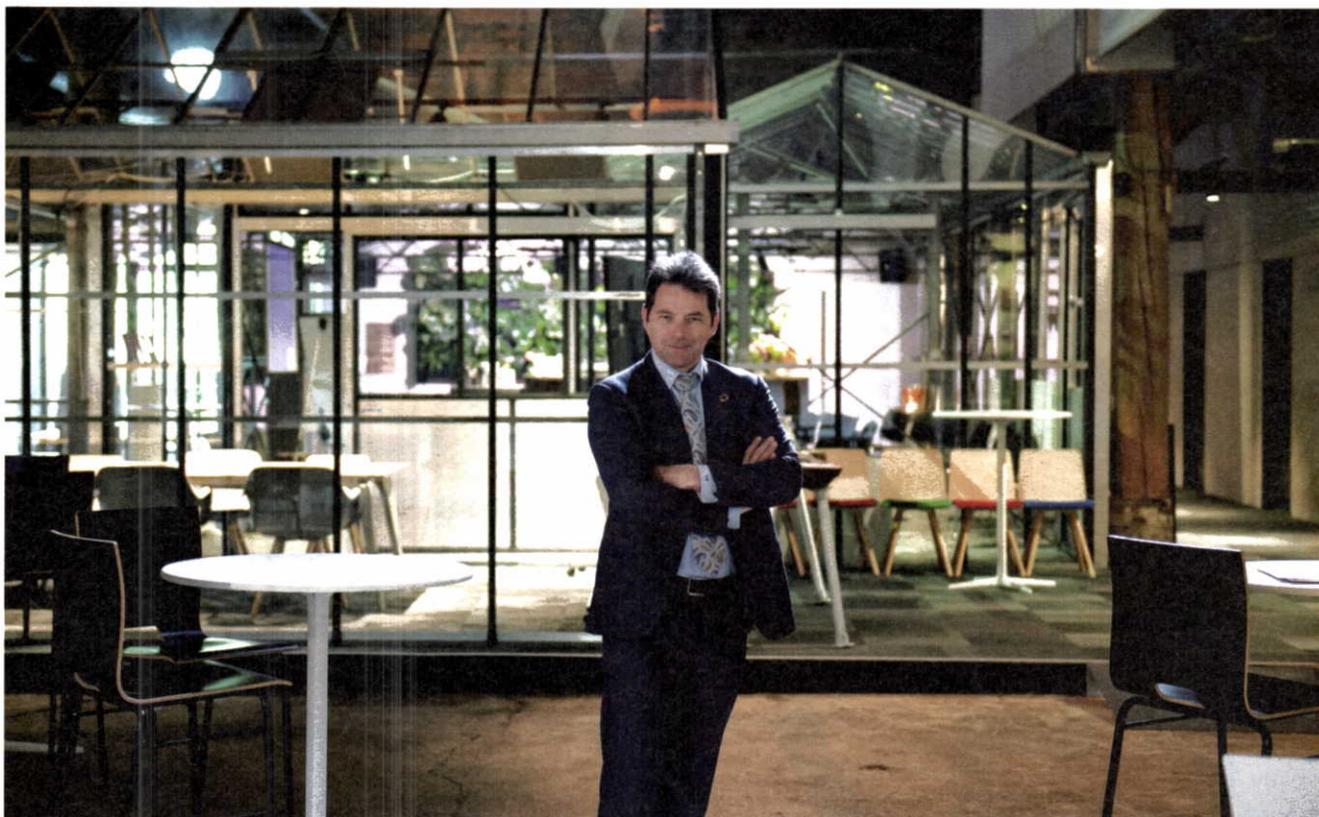
オランダは、サーキュラー・エコノミーの実践例が豊富だ。2016年9月発表の「100%実現」方針では、【バイオマスと食品】【プラスチック】【製造】【建設】【消費財】の5つの分野で、それぞれに取り組む項目（指標）を決めていて、オラ

ンダ・サーキュラー・ホットスポット財団（HCH）でも、これら5つの分野からベスト実践例を集めて公表している。そんなフロントランナーたちにインスパイアされる人たちは多い。

国内の企業がサーキュラー・エコノミーに移行するよう具体的に支援するプログラム「Het Versnellingshuis」でもたくさんの情報を提供しつつ、財団で

は少し広い視野に立ち、国境を越えて発展していけるような実践に移行できるようにサポートしている。

「財団のオフィスがあるこの建物 C-Bètaは、築125年の農家のリノベーションです。昔の農家は無駄がなくサーキュラー・エコノミーを実践していたといえるので、ここにオフィスを構えているのはある意味象徴的ですが、ここに新



オランダ・サーキュラー・ホットスポット財団ディレクター Freek van Eijk氏

Photo by Kiyomi Yui (studio frog)